

# 文章題テスト・説明文(4)

月 日  
名 前

★ つぎの文しようを読んで、あとの問いに答えましよう。

カワセミという鳥の名まえを、知っている人は多いでしょう。けれど、この鳥を見たことのある人は、このごろではすくなくなっていると思います。

カワセミはその名のように、川にすんでいる鳥で、小さな川魚や、流れにすんでいる虫を食べて生きています。

カワセミを「川の番人」と、よんでいる人がいますが、それは、この鳥がきれいな川にしかないからです。

ちかごろ都市のまわりの川は、ひどくよごれています。川がよごれたすと、そこにすむ魚も種類がへりはじめます。カワセミのこのんで食べるウグイやオイカワの幼魚は、きれいな流れやふちにしかすめないのので、川がよごれはじめると、カワセミはもつときれいな川にうつっていくのです。

(高橋健)「ふるさとの川の番人カワセミ」より  
(注)ウグイ・オイカワ…コイのなかまで、川にすむ魚。  
幼魚…まだ小さい魚。ふち…水のふかいところ。

1 線「カワセミ」について、つぎのよう  
にまとめました。□に当てはまることば  
を、文中からそれぞれ書きぬきましよう。

・すんでいるところ…川

・食べもの…小さな川魚や、

流れにすむ虫

2 線「この鳥を見た…すくなくなつて  
いる」とありますが、それはなぜですか。  
つぎの文の□に当てはまることばを、  
文中からそれぞれ書きぬきましよう。

都市のまわりの川が

よごれて、カワセミの

食べものがへり、食べものを

もとめてほかのきれいな

川にうつっていったから。

「ちかごろ…」からのぶぶんをよく読む。

3 線「川の番人」とは、どういう意味  
ですか。もつともふさわしいものを、  
ア～エからえらんで、記号に○をつけま  
しよう。

ア 川をそうじする人

イ 川のよごれを見る人

ウ 川の生きものをまもる人

エ 川にすむえらい人

川がよごれるといなくなることから、「番人」とよばれる。